

詳細版掲載記事

タイトル：社会科教育学研究室の学生がシティズンシップ教育研究大会 2023 で発表しました

本文：

釧路校・社会科教育実践分野・社会科教育学研究室の玉井ゼミの活動をご紹介します。

2023年10月1日（日）に実施されたシティズンシップ教育研究大会 2023@オンライン（日本シティズンシップ教育フォーラム：J-CEF [ハイパーリンク](https://jcef.jp/project/cerc/cerc2302.html)）において、社会科教育学研究室の1年生・佐々島忠佳さんと3年生・瀬川正義さんが研究発表を行いました。また、2年目・瀧田勇仁さんも研究大会に参加し、様々な発表を視聴しました。研究大会に参加した3名の学びのふり返りは、以下のPDFからご覧いただけます。（文責・写真撮影：玉井慎也）

詳細は [PDF](#) はこちら [【ハイパーリンク URL】 https://jcef.jp/project/cerc/cerc2302.html](https://jcef.jp/project/cerc/cerc2302.html)

～学部1年生・佐々島忠佳さん（参加・共同発表）～

J-CEFに参加して、全国規模の研究大会の雰囲気を感じるとともに、後期の研究に繋がるヒントを得ることができました。

シンポジウムでは、3名の先生方の研究を見ました。「葛藤」というキーワードを巡って、それぞれ異なる視点からのアプローチがなされており、様々な学問領域の考えに触れることができました。中でも、森田先生の研究に興味を持ち、社会的なアプローチを今後の研究に組み込んでみようと考えました。

自由研究発表では、様々なテーマの研究を見ることができ、研究の面白さを感じることができました。私自身も発表を行い、緊張していて少し時間を過ぎてしまいましたが、良い経験になりました。質疑応答ではしっかりとした回答ができたので、その部分での自身の成長を感じました。また、指導教員の玉井慎也先生と共同で発表資料を作成する過程では、1年ゼミの取り組みを省察するとともに、研究大会におけるスライド・デザインを学ぶことができました。

JCEFを通して、シティズンシップへの考えを深めるとともに、自分自身の世界を広げることができました。今後も様々な学会に参加し、教師、研究者、市民として成長していきたいです。

～学部2年生・瀧田勇仁さん（参加のみ）～

私は、これまでの研究活動において、授業内容に子どもたちが興味関心を向けるためにはどうすれば良いか、学習意欲の向上のために教師にできることは何かといったことに焦点を当ててきました。今回、J-CEFに参加し、いくつかの発表を見ていると、私とは違った視点から授業への集中力向上にアプローチするような研究発表がありました。学習の動機づけに関する他の方法や、日常で行っている些細なことからも研究の可能性があることに気づき、私自身の視野を広げ、視点を増やす良い機会となりました。

～学部3年生・瀬川正義さん（参加・単独発表）～

今回 J-CEF の研究大会に参加して、オンラインではありましたが、初めて外部（釧路大の学生や先生以外）の方々に向けて研究発表を行う経験を得ることができました。緊張して上手く発表できなかったのですが、専門家の方々から今後の研究へのアドバイスを頂くことができました。また、他の参加者の発表からは研究方法や研究の着眼点、発表構成などを学びました。この機会を得たことを今後の研究室活動に活かしたいです。

掲載写真（関係者以外にはマスク処理をしています）

**オンライン発表に臨む
玉井慎也先生（上）と1年生の佐々島忠佳さん（下）**

日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）
シティズンシップ教育研究大会2023（2023年10月1日）
自由研究発表【第1-1分科会，第2発表】13:50-14:25

【発表題目】
**シティズンシップ教育を研究する
研究室文化の形成と批判的継承**
—北海道教育大学釧路校・社会科学教育ゼミの正統的周辺参加を事例に—

【発表者】 玉井 慎也（北海道教育大学釧路校・講師）
佐々島 忠佳（北海道教育大学釧路校・学生）
【連絡先】 tamai.shinya@k.hokkyodai.ac.jp（代表・玉井）

発表構成

I. 問題の所在：ブラックボックスの高等教育ゼミナールへの照射

**2023年度前期の社会科学教育学研究室における
1年ゼミの「実践と省察」について発表しました**

V. 省察
～「研究者（養成者）」「教師（教育者）」「市民（教育者）」としての成長～

「実践（ゼミ経験）」を通して、学部新生の佐々島の成

- ① 教師としての成長と今後の成長課題
- ② 研究者としての成長と今後の成長課題
- ③ 市民としての成長と今後の成長課題

の3つの視点から省察する。

19

オンライン発表に臨む3年生の瀬川正義さん

【日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）・シティズンシップ教育研究大会2023@オンライン】
自由研究発表【分科会2-6-(1)】2021年10月1日（日）15:30-17:00
『研究発表要旨集』pp60.-61

**アメリカにおけるDC教育の
理論と実践の解明**
—ISTEが提案するDCの9要素からみた教材分析—

発表者：瀬川正義
(北海道教育大学釧路校・学部3年)
【連絡先】 s41010u1@stu.hokkyodai.ac.jp

(指導教)

**2023年度前期の社会科学教育学研究室における
3年ゼミの研究成果について発表しました**

I. デジタル・シティズンシップ（DC）とは

デジタル・シティズンシップ（DC）
→ **デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力**（欧州評議会 Digital Citizenship Education Trainers' Pack 2020）

例えば…

- ・フェイク情報かどうか判断できる力
- ・YouTubeやX等で他人を傷つけない投稿ができる！
などなど…